

こども食堂のつくり方講座

こども食堂ネットワーク・編

今年に入り、新たな「こども食堂」がオープンしたという知らせが、全国各地から続々と届くようになりました。そんななか、地域でこども食堂の活動をされている方々の連絡会「こども食堂ネットワーク」には、「私も始めたいんだけど、どうしたらいいの?」といった問合せが数多く届いているそうです。そこで、こども食堂ネットワークが不定期に開催する「こども食堂のつくり方講座」から、こども食堂をはじめめるための、基本の「キ」について教えてもらいました。



1 こども食堂にはいろいろな形があります

こども食堂には多様性があり、その活動を定義するのはむずかしいのですが、「こどもが1人でも利用でき、地域の方たちが無料あるいは少額で食事を提供する場所」というのが、現在こども食堂を運営されている方々に共通した考えだと思います。そこで、こども食堂をはじめるとして、まずは次の3点をなんとなくイメージしてみ

ることをおすすめします。

- どの程度の頻度で開くのか
- 1回で何人くらいの利用者を想定するのか
- どんな人に来てほしいのか

すでに始まっているこども食堂を見ると、おおよそ週に1回、あるいは月に1、2回開催するところが多く、1回に20〜30食程度（多いところでは50食以上）を提供しています。

NPOなどの市民団体が母体になり開いているところも多いですが、ふつうの主婦の方が仲間と一緒に始められる例も多い。だれでも開くことができるのがこども食堂の魅力のひとつです。こども食堂を実際に見たことのない方は、一度、地域のこども食堂を見学したり、ボランティアとして参加してみると、その雰囲気がかめると思います。

2

「場所」と「ネットワーク」が大切です

椎名町こども食堂をはじめ、豊島区内で3カ所のこども食堂を運営するNPO法人「豊島子どもWAKUWAKUネットワーク」事務局長の天野敬子さんは、こども食堂には「場所」と「ネットワーク」が大切と言います。

お寺や教会、あるいは公民館などの公共施設、個人の自宅や飲食店の休業日など、さまざま

な場所でこども食堂は行なわれていますが、場所代が高額になると継続することがむずかしい。なるべく安価（無料だとさらにいいですね）で借りることができて、衛生面もしっかりしている。さらに、こどもたちが集まりやすい場所が見つかることが最高ですね。

また、こども食堂の活動を一緒にやってくれる仲間がいると

心強いと思います。そのなかで、こどもたちと密につながっている方、お米や野菜などの食材を提供してくれる方、調理師や栄養士の資格を持っている方、運営資金をカンパしてくれる方……。そうした地域のさまざまなネットワークがながつていくと、こども食堂を運営するうえでとても心強いサポートになっていきます。





3

相談に行ってみましょう

地域の子どもたちの事情については、やはりその地域の人がいちばん詳しいと思います。役所・役場で「子ども」「福祉」を担当している部署、地域の社会福祉協議会、学校や保育園・幼稚園の関係者、民生委員・児童委員さん、児童館や学童クラブのスタッフ……、そのほか子どもに関わるあらゆる人に相談してみたいかがでしょうか。そこで新たな出会いが生まれ、

一緒に子ども食堂を運営していくことになるかもしれません。たとえ協力を得られないとしても、「子ども食堂をやりたい人がいる」ことを地域の人たちに知らせることになるので、決して無駄足にはなりません。全国には、子ども食堂の活動を行う政が支援している自治体もいくつかあります。「子ども食堂が必要」という市民の声が、行政を動かす力にもなるのです。

5

毎回、試行錯誤の連続です

「子ども食堂があることを、どのように子どもたちに伝えるか」実はこれが、子ども食堂を始めた多くの方が抱える課題でもあります。そして、そこに簡単な答えはありません。

子ども食堂を始める方のほとんどは、「子どもの貧困」や「孤食」の問題を解決する力になりたいと思っています。しかし、最初からそうした問題で苦しんでいる子どもたちだけに、来てもらう場所をつくることはなかなか難しいのが現状です。毎回、試行錯誤を重ねながら、子ども食堂が地域のなかで信頼できる場所になっていくこと。そして、子どもたちに深く関わっている方々の協力を得ながら、子どもたちのための重要な「居場所」となっていただければと思います。

4

子どもたちの安全・安心のために

子ども食堂をはじめするには、特別な資格もいりませんし、届け出を出す必要もありません。しかし、子どもたちに「食べ物」を提供するので、その安全・安心には細心の注意が必要です。多くの子ども食堂では、事前に保健所に相談をして、子ども食堂の規模や頻度、場所に応じた届け出をしています。この点

については、自治体によって異なる点も多いので、地域の先輩子ども食堂さんや保健所の方と相談したうえで、最善の方法を模索してください。また、不測の事態に対処するため、イベント保険やボランティア保険などに加入しておくことも、子どもたちの安心のためにおすすめしています。

ここで紹介したのは、「子ども食堂」をはじめ前の「心がまえ」のようなものです。実際の運営ノウハウについては、先輩子ども食堂さんに直接教を乞うのがいちばん。子ども食堂ネットワークでは、そのための場として「子ども食堂のつくり方講座」を不定期で開催しています。すべてボランティアで行なっているためあまり頻繁に開催できませんが、詳しくは以下のウェブサイトをご覧ください。過去に行なった講座のアーカイブ映像も見られます。

子ども食堂ネットワーク

<http://kodomoshokudou-network.com/>

【問合せ】

子ども食堂ネットワーク事務局

電話：03-5365-2296 (平日10時～18時)

メール：info@kodomoshokudou-network.com

※メールの場合、すぐに対応できないこともあります。

